

## 第4回トレーサビリティテストについて

事務局作成

2010.06

### 、実施目的

食品に関わる事業者は、食の安全・安心を確保するため、トレーサビリティの仕組みを構築しています。しかしトレーサビリティの仕組みが正常に働くかどうかは実際に事故が起きてみないと分かりません。そこで日本トレーサビリティ協会では実際に事故が起こったことを想定し、商品の情報が本当にトレースできるかどうか（トレーサビリティが実際に効いているか）を検証するため、トレーサビリティテストを実施いたします。

### 、参加企業の推移

08年に初めてトレーサビリティテストが実施され、今年度で4回目となります。昨年参加した企業・団体は101社、180商品となり、年々参加企業様は増えております。

### 、実施日

- |                                   |          |
|-----------------------------------|----------|
| 1) 農産、水産、畜産、米、卵                   | 7月21日(木) |
| 2) メーカーとしての加工食品(農産加工、水産加工、畜産加工含む) | 7月28日(木) |
| 3) 卸としての加工食品(デリカベンダー含む)           | 7月28日(木) |
- 各テストのフォームがあります。

### 、基点について

- 基点のルール：生鮮食品(センター)  
加工食品(店舗基点)  
宅配商品(センター納品日)

### 、商品情報発信

トレーサビリティテスト当日の10時に対象商品の情報をメールにて配信します。  
選定商品は可能な限り取扱いの多い商品5品の中から2品を選択して、情報を発信します。北海道100取扱いの企業様はすべての商品が対象となります。情報は商品名(JANコード)、賞味期限(製造日)、製造者固有記号、その他区別のできる識別記号

、トレーサビリティテスト報告について

参加企業様は情報がきたら、調査の開始時間を記入の上、項目の内容を調査し報告書に記入し、終了時間を記入して、日本トレーサビリティ協会事務局までメール、またはFAXで返信する。

評価するポイントとしては、テストにかかった時間、情報として必要な項目数、その項目の正確さ、の3点について精査いたします。項目の正確さを担保する為に帳票の提出を求めることとする。

、トレーサビリティテストの結果は報告書としてまとめて参加企業・団体様へお渡しいたしますので、ご活用ください。

、参加申込書は別紙をご覧ください。